

「自然に  
成長する  
教会」によって

健康な  
アドベンチスト教会を  
創造する

ラッセル・ブリル著／山地明訳



# 「自然に成長する教会」によって 健康なアドベンチスト教会を創造する

第1章	二つの教会の物語	2
第2章	自然に成長する教会	5
第3章	権威分与的リーダーシップ	8
第4章	賜物に基づいたミニストリー	11
第5章	熱烈な靈性	15
第6章	機能的組織構造	17
第7章	生き生きとした賛美と礼拝	20
第8章	多機能的な小グループ	23
第9章	ニーズ志向的伝道	26
第10章	愛にあふれる関係	29
第11章	あなたの教会の現状は？	30

ラッセル・ブリル著／山地明訳

ラッセル・ブリル博士はアンドリュース大学神学院内に設置されている、北米支部宣教研究所所長であり、同神学院教授として健全教会、教会成長、などの宣教学に関する講座を担当しておられます。

ブリル博士は「自然に成長する教会」の考え方の中には、初期のアドベンチスト教会で用いられ、預言の靈にも書かれている聖書の原則が反映されていることからこのコンセプトに惹かれたと紹介しています。また、過去25年間にわたる博士の研究生活の中で、「自然に成長する教会」は教会成長に役立つ最適なツールであり、アドベンチスト教会を健全にし、神がご計画になったように成長させることのできる潜在力を持っている、と紹介しています。



## 第1章 二つの教会の物語

サウスサイド教会は活気にあふれていました。連続大伝道講演会が地域のために計画され、全教会員がこの大きなイベントの準備に深くかかわっていました。教会の近隣のほとんどの住民に案内状が郵送されましたし、教会員たちは友人や隣人たちを招待しました。神は、この伝道活動の結果、キリストを信じる多くの人々を引き寄せようとしておられるという大きな期待がありました。

数か月の準備と懸命な働きによって、最初の夜には多くの出席者が与えられると期待されました。夕べが近づくにつれて期待は一層高まりました。人々は応答するだろうか。人々はキリストを信じるようになるだろうか。最初の集会のために人々は教会に到着し始めました。教会は一杯になってきました。群衆を収容できるように通路には余分な椅子が置かれました。伝道者は興奮気味にメッセージを提示しました。人々は耳にしたすべてのことについて感動し、幸せな思いで教会を後にしました。

夜が進むにつれて、群衆は毎夜教会に群がり続けました。イエスを信じ受け入れる決心をするようにとの訴えがなされたとき、人々は列をなして教会の通路にあふれました。毎夜バプテスマ式が行われました。聖霊が大きなみ業をなしておられることは明らかでした。この連続集会が終わったとき、神がお与えになった豊かな収穫に対し教会員たちは大喜びでした。この集会がこれほど成功した理由を尋ねられて、牧師は神が教会に聖霊を注がれたからだ、とだけ答えました。

イーストサイド教会も同じように連続講演会を計画しました。牧師は万事手ばかりがないように懸命に働きました。集会の上に聖霊の降下を熱心に祈りました。この地域のほとんどすべての家庭に案内状が配られました。開会の夜が到来したとき、彼の期待は高まりました。しかし、いよいよ最初の集会が近づいたとき、サウスサイド教会の経験が、イーストサイド教会で繰り返されないことは明らかでした。人々が集まっては来ましたが、わずかに会堂のおよそ半分位で、未信者は聴衆の半数でした。

その夜聴衆は、聴いたメッセージに興味を示しました。しかし次の集会には、未信者の半数の人々しか帰ってきませんでした。未信者の数が少なくなればなるほど、教会員の出席者も少なくなり、最後には義理で毎夜出席する一握りの辛抱強い魂だけとなりました。最終的には、二人の貴重な魂がイエスにその生涯を委ねたことに対し、神をほめたたえましたが、イーストサイド教会は、サウスサイド教会をうらやましく思い、なぜ自分たちの教会が彼らと同じ結果を経験できなかったのかと不思議に思いました。

イーストサイド教会の牧師が、なぜ集会が成功しなかったのかと尋ねられたとき、重要なのは数ではなく質なんだということを、彼はすぐに強調しました。バプテスマは二名だけでしたが、この二名は質の良い魂だった、というわけです。しかし、三か月後にはこの二名の新しい教会員は、イーストサイド教会に、もはや姿を見せなくなりました。牧師は、聖霊がイーストサイド教会の地域においては、サウスサイド教会の地域ほど活発に働いているようには思われなかった、という考えを表明しました。結果は神のみ手のうちにあることを認めてはいるものの、彼は神がなぜイーストサイド教会よりもサウスサイド教会をより一層祝福なさったか、特に両者共に同じ数の案内状を郵

送したので一層その理由を理解することができませんでした。彼は、イーストサイド教会の地域の住民は、サウスサイド教会の地域の住民よりも、福音に対しての抵抗がより強かったのだと想像しました。

上述の筋書きは、アドベンチストの多くの教会で毎年演じられている事柄です。ある教会はいつも伝道に成功してきたようですし、一方他の教会はうまく行かないのです。教会が伝道講演会を開催して教会に多くの人々を導けなくとも、その集会は失敗であったとは決して認めないのです。彼らは「質対量の論理」を用い、すべての魂は重要であって、われわれは人数にこだわるべきではないことを強調するのです。貧弱な結果を正当化するために教会員たちが用いる別の防御機構は、神を責めることです。聖霊が、サウスサイド教会の地域と同じようにイーストサイド教会の地域でおそらく働いてはいないのであろう、というのです。人々はメッセージに関心がありません。連続の伝道集会は先の世代の遺物だ、と言うのです。公衆伝道はもはやうまく行かない。しかし彼らはサウスサイド教会、あるいは多くの他のアドベンチスト教会でうまく行った理由を説明することができないのです。

驚くことに、伝道がある地域で成功し、他の地域で成功しない理由のどの分析の中にも、教会の健康について考察する分析は一つとしてないのです。サウスサイド教会は健康な教会のすべての特徴を示していたが、イーストサイド教会はそれらの特徴に欠けていたということはなかったでしょうか。もしそうであれば、サウスサイド教会に大きな成功をもたらし、イーストサイド教会はわずかの成果しか得られなかったのは、伝道の方法——この場合は公衆伝道——のせいではなかった、と言えます。伝道が成功するかどうかは、教会の健康如何にかかっているのです。教会が健康であれば、伝道のためにどのような方法がとられても、教会は自然に成長します。健康な教会においては、ほとんどどのような方法でもうまくいきますが、一方健康でない教会においては、どのような方法もうまく作用しないようです。教会がいかに成長するかを見出す手段として、教会の健康状態を調べる時が到来したのかもしれない。

イエスは、教会の成長に関して、あるいは、イエスの表現を用いれば、神の国の成長に関して、多くのことをお語りになりました。イエスの成長の形態は、正しい方法論を用いてではありませんでした。そうではなくイエスは教会をいかに成長させるかの実例として、自然界に注目なさいました。譬えの多くは、神の国を自然界を用いて描いています。イエスによれば、イエスの教会は、正しい方法によって成長を作り出すのではなく、器官が健康であれば教会は自然に成長するということをご存じで、健康な器官の必要を強調なさいました。

イエスは、野の花がいかに成長するかを考えると弟子たちに勧告なさいました。「野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった」（マタイ 6：28、29）。われわれは野の花の美しさを観察するのではなく、それがいかに成長するかを観察するようにと言われたことに注意しましょう。イエスは神の国の成長を例証しておられるのです。それは作り出された成長ではなく、自然な成長です。野の花は成長するために働きはしません。野の花は健康であれば、おのずと成長するのです。イエスの教会も同じだ、とイエスは宣言なさいました。

それは、自分の父親のように大きく強くなりたいと願っている小さな少年のようです。彼は毎日戸外に出て衣類干し竿にしばらくぶら下がり、すべての筋肉を引き伸ばしました。それから彼はどれほど背が伸びたかを計るために、家の中に入って行きました。われわれはこれを笑いますが、教会もときどきこれと同じことをしているのです。教会は自分で背伸びをし、神の国を進展させようと懸命に働くのです。しかしもし少年が健康体であり、正しい食べ物を食べ、十分な運動をするならば、彼はおのずと成長するのです。神の教会も同じです。

この自然的成長の原則に関する聖書の最大の実例は、おそらくマルコ4章の「種を蒔く人」のイエスのたとえの中に見られると思います。

「また、イエスは言われた。「神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて、夜昼、寝起きているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。実が熟すと、早速、鎌を入れる。収穫の時が来たからである」(マルコ4：26～29)

種は成長しようと働きません。農夫が種を成長させるのでもありません。農夫ができることは、種のために健康的な状況を作り出すことだけです。すなわち、立派な土壌、十分な水、雑草に邪魔されない環境等です。それに日光が加わると、種は発芽し、農夫のために実を実らせませす。どうしてそうなるのでしょうか。だれも分かりません。それはおのずとそうなるのです。種を成長させるのは農夫の仕事ではなく、健康的な状況の上に注がれる神の祝福の業なのです。

イエスは神の国がどのように成長するのかをわれわれのために説明しておられます。教会は正しい方法を用いるから成長するものではありません。これらの方法が良い土壌や水や日光と混ぜ合わされるときに、おのずと成長するのです。もしわれわれが、イエスがこれらの自然的成長の譬えの中ではっきりと述べられた原則を理解するならば、サウスサイド教会とイーストサイド教会の間の成功と一見不成功と思われる理由は、用いられた方法とは何ら関係がないことが分かります。教会は、この世の悪い土壌を責めないで、教会の土壌を調査するとよいのかもしれない。教会はその健康を改善し、イエス・キリストの生き生きとした成長する教会となることができるのでしょうか。もしわれわれがイエスを信じるならば、その答は明らかに「できる」であります。

エレン・ホワイも、イエスに人々を導く働きにおいて、人間と神との一致の必要を述べています。マルコ4章を注解して彼女は、もしわれわれが逆らわなければ、神は増やしてくださると述べています。

「物質の世界は、神の支配のもとにある。自然界は、自然の法則に従っている。万物は、創造主のみこころを語り、また行っている。雲、日光、露、雨、風、あらしなどはみな、神の支配のもとにあつて、神の命令には絶対に従う。『初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実』と麦が生長していくのは、それが神の法則に従っているからである (マルコ4：28、口語)。穀物の苗は、神の働きに逆らわない。であるから、季節がめぐってくるにつれて生長するのである」(1)

何と驚くべき結論でしょう。もしわれわれが逆らわなければ、神が収穫をもたらされる、というのです。神が望んでおられるような収穫を神が与えにくくするような抵抗を教会はすることができるとは思いませんか。さらにこの抵抗は、マルコ4章についてのエレン・ホワイトの勧告に述べられているように不健康な形態の中に見出されるのでしょうか。もしわれわれが教会の中のすべての不健康な障害を取り除き、われわれの教会が自然に成長するようにさせるならば、どのような結果になるだろうかと思像します。これがわれわれの成長の秘訣となりうるのでしょうか。

キリストの教会を成長させるためには、主の計画に従わなければなりません。イエスは、自然の法則に従って教会は成長すると言われました。そこでわれわれはキリストの教会をいかに成長させるかを学ぶために、自然界を研究しなければなりません。エレン・ホワイトはこの基本的法則について一層詳しく説明しています。

「人と接するに当たり、彼（キリスト）は自然界に表されているのと同じ原則を用いられた。自然界における慈愛に満ちた営みは、突然の不意の介入によって成し遂げられたものではない。人間は自然の営みに手を出すことを許されてはいない。神は一定の規則的な法則の営みによって働かれる。霊的な事柄についても同じである。サタンはいつでも荒々しい暴力的な行為によって目的を達しようとするが、イエスは人々の最も親しい関係によって人々に近づかれる。彼は突然の行為や定められた規定によって、人々のそれまで慣れ親しんできた思想をかき乱すようなことは、極力避けられた。」(2)

アドベンチストは健康的な生活の熱心な主唱者です。われわれはこの働き当初から、健康的なライフスタイルこそ健康で長生きをする秘訣であることを強調してきました。われわれは良い健康のための「8つの自然療法」を進展させてきました。これらの自然療法は、身体的健康に関するアドベンチストの理解の基礎となるものです。身体的健康のための8つの自然療法と教会の健康との間に関係が存在するのでしょうか。健康な教会の中にも8つの自然的な特徴が存在する可能性があるのでしょうか。最近の研究の結果判明したことは、健康な教会には8つの特徴が実際に存在するのです。さらに、これらの8つの特徴が教会の中に存在するとき、その教会は自然に成長するということが判明したのです。次章においてこれについて詳しく調べてみましょう。

(1) 『キリストの実物教訓』福音社、61ページ。

(2) Ellen G.White, "Testimonies to Ministers and Gospel Workers" (Mountain View CA: Pacific Press Publishing Association, 1944), 189-190.

## 第2章 自然に成長する教会

イエスの任務を遂行することについて真剣に考えている教会にとって、教会が健康であることは必須なことです。われわれが聖書とエレン・ホワイトから習得した法則は、教会の成長は自然界の成長と似ているということです。自然的な成長は自然界全体に見受けられます。自然界においては

物は成長のために働きません。それらが健康である限りおのずと成長します。したがってわれわれが健康な教会を創造しようと求めるならば、教会は自然に成長し始めるでしょう。

聖書とエレン・ホワイトの書物は共に、教会の中に存在すべき多くの質的特徴を内包しています。教会がより高い質を創造するために働くときに、成長は自発的に起こります。しかし、これらの特徴の多くは聖書とエレン・ホワイトを調べることによって見出すことができますが、それらはすぐに見つかるように一個所にまとまって存在しているわけではありません。さらに教会は、質的特徴が判明するようにいかにうまくやっているかを測定する方法を持ってはいません。

しかし、ルーテル教会の神学者、クリスチャン・シュヴァルツは、ある興味深い研究を行いました。彼の著書『自然に成長する教会』(3)の中でシュヴァルツは、健康的で成長している教会の中に存在する8つの質的特徴を掲げています。これらの質的特徴を綿密に調べると、それらが聖書とエレン・ホワイトが述べている質的特徴と同じであることが分かります。シュヴァルツは、教会の中にこれらの8つの質的特徴が存在しているとき、それらの教会は自然に成長すると宣言しています。ですから彼は、彼が発見したことを「自然に成長する教会」と呼んだのです。

シュヴァルツは、聖書とエレン・ホワイトの両者によって明確に述べられている基本法則を発見したのでした。それは「高い質は量を増大させる」という法則です。現代の研究が、過去において聖書とエレン・ホワイトがわれわれに示していた事柄を完全に立証したことを知ることは、アドベンチストにとって感動を呼ぶことです。シュヴァルツは、この法則を発見したばかりではなく、彼の優れた研究を通してこの概念の骨格の上に肉付けをしました。シュヴァルツは、この原則を取り上げ、現代の教会が成長し健康な状態になることができるように、その法則を現代教会が使用することができるような貴重な道具に変えました。

シュヴァルツは、地球上の主要な大陸の100か国以上に存在する教会を対象に、彼の研究調査を実施しました。彼は最初に発見した事柄をさらに立証する追加のデータを収集し続けてきました。この膨大な超教派的に収集されたデータの中には、多くのアドベンチスト教会もまた含まれています。質的特徴の中には教理は含まれてはいないので、これらは聖書に忠実などの教会においても通用する普遍的な特徴です。

シュヴァルツの研究の価値は、成長する教会の8つの質的特徴の発見に留まらず、さらに一つの道具を用いて、質的特徴のそれぞれがいかにうまく実行されているかを、教会が他の教会と比較しながら測定できるということです。シュヴァルツ研究所の協力を得て、SDA北米支部伝道研究所(NADEI)は、アドベンチストが自分たちの教会の質的特徴を見つけやすいようにアドベンチスト教会版の特別調査法を創作しました。

この調査では平均値を50に設定しています。言い換えれば、普通の教会は50点をとります。しかしもし教会が特定の質的特徴においてほとんどの教会より優れておれば50点以上であり、うまくやっていなければ50点以下となります。2003年の時点でNADEIは、自然に成長する教会調査のデータを、北米支部内の400以上の教会から収集し、その結果アドベンチスト教会が通常どの特徴において高い得点をとるか、どの特徴において低い得点をとるかが判明しました。教会が自分たちの一番弱い特徴が何であるかを発見し、その改善のために努力した後に再調査を実施して、教会が

質的に改善され、結果としてより良い健康体となり、より高い成長を遂げたことをわれわれは見てきました。

シュヴァルツがなした最もすばらしい発見の一つは、もし教会がその教会の最低の要素（すなわち、最低の得点をとった特徴）について改善の努力をすれば、たとえ他のすべてではなくても、他の幾つかの特徴にも影響するという事実です。最も弱い特徴が、教会成長を最も妨げている主要な点であることが判明したのです。最低の要素に注意を払うことによって、教会はより大きな健康改善を達成し、多くの場合において成長もし始めるのです。質と量は不可分に互いに結びついているのです。

シュヴァルツは、ある特徴、たとえば多機能的グループは、他の特徴よりも成長により多くの影響を与えることを発見しました。しかし8つのすべての特質は皆重要です。一つでもおろそかにすると、教会の成長に影響します。したがって教会は、8つの質的特徴のすべてがより高いレベルになるように継続的に働くことが重要なのです。

質の重要性は、アドベンチズム精神そのものの中に深く埋め込まれています。最初からわれわれは行うすべてのことを可能な限り最善な方法で、慎重に実行してきました。われわれ自身の個人的な霊的生活であれ、また教会の共同体としての生活であれ、質は一番大切に欠かせません。

「神がその子らにお望みになる理想は、人間の考えのおよばないほど高いものである。神のようになること、すなわち神のみかたちに似ることが、到達しなければならないゴールである。生徒の前には不断の進歩の道が開かれている。彼は成就しなければならない目的、到達しなければならない標準をもっている。そこには良いもの純粋なもの尊いもののいっさいが含まれている。彼は真の知識のあらゆる部門に、できるだけ早く、そしてできるだけ高く進歩する。しかし彼の努力は、天が地よりも高いように、単なる利己の物質的な利害よりもいっそう高い目的にむけられる。」(4) (『教育』福音社、8ページ)

過去において教会は、その弱点を見出すことが困難でした。教会員たちは、共同体として問題の領域を確定することができなかつたのです。外部のコンサルタントでさえ、異なる結論を引き出していました。教会が、改善を要する分野を知る助けとして用いることができる具体的な道具がなかつたのです。ところが「自然に成長する教会」が発見されたとき、すべてが変わりました。今は聖書とエレン・ホワイトの書物の両者によって確認されている、質的特徴を測定する道具があるので、究極的に優れた処方箋を与える結果となる良い診断をすることが可能となりました。

クリスチャン・シュヴァルツによって確認された質的特徴とは一体何でしょうか。それは以下の通りです。

1. 権威分与的リーダーシップ
2. 賜物に基づいたミニストリー
3. 情熱的な霊性 (\*)
4. 機能的組織構造

5. 生き生きとした賛美と礼拝
6. 多機能的小グループ
7. ニーズ志向的伝道
8. 愛にあふれる関係

後続の章においてわれわれは、これらの特徴を定義し、それぞれの特徴を、聖書とエレン・ホワイトの書物の両者の助けによって調査します。われわれはまた、アドベンチスト教会がこの特徴のそれぞれにおいて、一般的にどれほどの得点を持っているかを発見するでしょう。

シュヴァルツによれば、質的特徴の記述において最も重要な言葉は、その形容詞です。そこでそれは単にリーダーシップではなく、「権威分与的」リーダーシップです。また単なる霊性ではなく、「熱心な」霊性です。特徴にその質を与えるものはこの形容詞です。聖書とエレン・ホワイトの書物によって確認された質的特徴を、われわれが測定する助けとして用意されている道具を用いて、われわれは質的により一層高いレベルに向かってわれわれの教会を計画的に動かし、われわれの教会を、神の国の進展に用いられるより良い神の器とすることができるのです。

「すべての教会には、長老たちや助手たちのための広い分野がある。彼らは、神の群れに、有毒な誤謬との混合物のもみ殻から完全に選り分けられた純粋な飼料を食べさせなければならない。神の教会において活動する何らかの分野を受け持っている者は、神の群れに食物を与える際に、必ず賢く行動しなければならない。なぜならば群れの繁栄は、大いにこの食物の質如何にかかっているからである」(5)

(3) Christian A. Schwarz, "Natural Church Development" (St. Charles, IL: ChurchSmart Resources, 1996). —日本語版は『自然に成長する教会—健康な教会への8つの不可欠な特質』JCMN出版、1999年—訳者注

(4) 『教育』福音社、8ページ

(\*) JCMN出版では『霊的な熱心さ』となっている。他の質的特徴はJCMN出版と同じ訳語を用いた—訳者注

(5) Ellen G. White, "Manuscript Releases", Vol. 19 (Washington, DC: E.G. White Estate, 1981), 316.

### 第3章 権威分与的リーダーシップ

すべての組織体は、ある種のリーダーシップを持っています。正常なリーダーもいるし、腐敗したリーダーもいます。教会でさえ偽りのリーダーたち——群れを荒らす残忍な狼ども（使徒言行録20：29）——が存在したことが分かっています。教会は強力な霊的リーダーシップを必要としています。自己宣伝ではなく、キリストの体を立てることを中心とするリーダーシップです。

最初の質的特徴である権威分与的リーダーシップとは、リーダーたちが他の人々に精力を注ぐように励ます接近方法のことで、この方法によって人々がキリストの満ち溢れる豊かさに達するように導き備えさせるのです。これは自分自身の利得のために人々を利用するような利己的な型のリーダーシップではなく、人々が成熟した人間となって、教会の適切な機能を果たす力となるように求めるような型のリーダーシップです。これは独裁的ではなく、他の人々に権限を分与する手法です。

教会の働きをすべて自分たちの手でやろうとするのではなく、権威分与的リーダーたちは、他の

人々が神の与えられる豊かな霊的力に達するように導くのです。その結果、権威分与的リーダーたちは、他の人々に権限を委譲し、彼らを訓練するために時間を用います。ですから彼らが他の人々のために費やすエネルギーは、幾倍にも増し加わるのです。

アドベンチストの先覚者たちのリーダーシップの型を調べてみると、たとえばエレン・ホワイトのような成功したリーダーたちの中に、この特徴が明らかに見受けられます。しかし、彼女の夫、ジェームス・ホワイトの中には、明らかには見受けられません。彼はすべてのことをしばしば自分自身の手で果たそうとしました。その結果彼は過労のために若死にしました。彼はエレンから、「自分で行う」リーダーではなく、「権威分与的」リーダーとなるようにと度々勧告を受けていました。ジェームスの強い個性がアドベンチスト運動の初期の進展のためには必要であった一方、もし彼が妻の勧告にしたがって権威分与的なリーダーになっていたとしたら、彼はもっと偉大なリーダーとなっていたことでしょう。

現代的な用語を用いてはいませんが、聖書の著者たちは、権威分与的リーダーシップがすべての教会に存在すべき質的特徴の一つであることを巧みに確認しています。「そして、多くの証人の面前でわたしから聞いたことを、ほかの人々にも教えることのできる忠実な人たちにゆだねなさい」（テモテ2・2：2）。パウロは、若いテモテに他の人々に教えるようにと勧めたばかりではなく、他の人々に教えるようにと、他の人々に教えました。これが成功するリーダーたちの人数を増加させる権威分与的リーダーシップなのです。

リーダーシップの役割を描いているパウロの唯一の聖句である、エフェソ4章において彼は、教会のリーダーたち——使徒、預言者、伝道者、牧師、教師たち——は、教会をその奉仕の業に備えさせるべきであると述べています（エフェソ4：11、12）。ここに神の教会において必要とされているリーダーシップの種類が、誤解の余地のない明らかな調子で述べられています。これは、他のリーダーたちを育てることを強調するリーダーシップであり、シュヴァルトツが権威分与的リーダーシップと定義しているものなのです。

この聖書の基盤の上に立って、エレン・ホワイトのような初期のアドベンチストのリーダーたちは、若い教会が権限を分与し、他の人々に備えさせるような聖書のリーダーシップの型を発展させるように絶えず助けようとしてきました。この点についてのエレン・ホワイトの勧告は豊富に与えられています。以下はほんのわずかの例です。

「既に幾人かの信者がいる所で働く時、牧師たちは未信者を悔い改めさせるよりもむしろ、適切な協力ができるようにまず教会員たちを訓練すべきである。教会員が彼ら自身の一層深い経験を求め、さらに他の人々のために働くように彼らを喚起させるために、牧師たちに教会員一人一人のために懸命にはたらかせよう。教会員が祈りと働きによって牧師たちを支える備えができる時、牧師の努力に大きな成功が伴うのである。」(6)

「すべての教会がクリスチャンの働き人を養成する学校でなければならない。……そして単に教えるばかりでなく、経験のある教師の下に、実際の仕事をしなければならない。教師が先に立って

人々の間で働くならば他の人はそれと協力し、その模範から学ぶのである。一つの模範は多くの言葉にまさる。」(7)

「牧師たちは、教会に属している働きをすべきではない。そのようにすると牧師自身が疲れ果てるし、他の人々が彼らの務めを果たすのを妨げることになる。牧師たちは、信者たちに教会やコミュニティの中での奉仕の仕方を教えるべきである。」(8)

アドベンチスト運動の揺らん期に書かれたこれらの勧告は、今日の教会にとって非常に深い意味を持っています。初期のアドベンチストたちは、リーダーがひとりですべての働きをするようにさせてはならないことの重要性を理解していたようです。奉仕のために人々を備えさせようとしなくて、すべてのことを自分自身でなそうと求める人々を矯正するために、勧告が次々に与えられました。

悲しいことに今日の教会は、この権威分与的リーダーシップの感覚の多くを失いました。多くの教会のリーダーたちはすべての奉仕を自分自身で行おうとして、信者たちは背後に座して批判し、神のすべての人々が果たすべき奉仕に参加せず、またそのための備えもなされてはいません。教会についてのアドベンチストの理解の中心にあるものは、教会のリーダーシップとは、神の民を奉仕のために訓練し備えさせることであるという概念です。したがって、神の民は全員が、イエスの全時間の働き人なのです。牧師や教会のリーダーたちは、彼らのコーチであり、彼らの奉仕のために彼らに権限を委ねるのです。これが、教会がいかに機能すべきであるかに関するエレン・ホワイトの明確な概念でした。

権威分与的リーダーシップのない教会は、健康ではありません。弱さの源が取り除かれられない限り、神の国のために生み出す力を持つことはできません。教会が自らを調査し、権威分与的リーダーシップを行使しているかどうかを確認することが非常に重要である理由がここにあります。この点において「自然に成長する教会調査」が役立ちます。この調査によって、教会は権威分与的リーダーシップに関するこの聖書的、アドベンチストの概念を本当に実行しているかどうかを発見することができます。もし教会の権威分与的リーダーシップの得点が低ければ、この特徴を良くするために努力し始めることができます。質が改善されると、教会の健康と成長に肯定的な影響を与えます。

「自然に成長する教会調査」を実施したアドベンチスト教会の得点を見ると、この特徴についてわれわれの教団の中で注意が必要であると理解させてくれます。この特徴についてのある教会の得点は非常に低く（最低得点は-18）、その一方で他の教会はかなり高い得点でした（最高得点は75）。マイナス得点は、50点と設定されている標準からの逸脱を表しています。したがって-18という得点が表していることは、教会が標準よりも68ポイント低い得点であるということです。同様に78得点した教会は、標準より28ポイント上であるという意味です。

権威分与的リーダーシップの特徴においては、ほとんどの教会は35と65の間の得点でした。これが普通の範囲だと考えられています。65以上の得点は、優秀です。一方35より低い得点は平均以下と考えられます。たとえ一つの分野で非常に低い得点であっても、教会は失望すべきではありません。

ません。それは、この質的特徴に対して多くの注意が払われなければならない、という意味に過ぎません。教会が、どの特徴であってもその質を改善するために熱心に努力するとき、次の調査のときに得点は劇的に改善されます。

アドベンチスト教会の大部分は、権威分与的リーダーシップの普通の範囲の中の低い端の得点で、平均得点は42でした。これは8つの質的特徴の中で、三番目に高い平均値です。したがって、もしあなたの教会がこの特徴において42以上の得点であれば、調査されたほとんどのアドベンチスト教会よりも良くやっているとということになります。

権威分与的リーダーシップは、確かに新しいものではありません。クリスチャン・シュヴァルツは彼の画期的な調査を通して、他の人に権限を分与するリーダーについてのこの聖書的概念に対して現代的な名前を付けました。これはエレン・ホワイトや他のアドベンチストの先覚者たちによって高く評価された特徴でした。これは、アドベンチスト教会が、教会の主であるイエス・キリストの高い質を反映する高質教会としての召命に忠実であるために、是非改善しなければならない一分野です。「自然に成長する教会調査」を用いることによって、今日の教会は現代的、科学的な方法により、どの分野の改善が必要であるかを発見することができるのです。

この調査それ自体は何も変えはしません。もし教会がその強い分野と弱い分野について知るだけで他に何もしなければ、この調査は役に立ちません。この調査は診断の道具です。もし教会がすべての特徴を改善するためには、優れた処方箋——たとえば、アドベンチストの著書「Health for the Harvest (収穫を得るための健康)」(9)の中に列挙されているような——も必要です。

(6) Ellen G. White, "Gospel Workers" (Washington, DC: Review and Herald Publishing Association, 1948), 196.

(7) 『ミニストリー・オブ・ヒーリング』福音社、121ページ

(8) Ellen G. White, "Historical Sketches of the Foreign Missions of the Seventh-day Adventists" [Basle: Imprimerie Polyglotte, 1886], 291.

(9) Robert Folkenberg, Jr., "Health for the Harvest : Four Inspiring Steps to Total Congregational Health" (Berrien Springs, MI: North American Division Evangelism Institute, 2002). Available at the NADEI Resource Center, Andrews University, Berrien Springs, Michigan 49104-1880, or at <http://www.nadei.org>.

## 第4章 賜物に基づいたミニストリー

「自然に成長する教会」によって確認された次の聖書的な質的特徴は、賜物に基づいたミニストリーという概念です。もしリーダーシップの役割が、キリストの伝道を完結するために教会員に権限を分与することであるならば、教会員は、各自に分け与えられている霊の賜物に基づく彼らのミニストリーのために備えをする必要があります。

アドベンチストは、当初から霊の賜物を強調してきました。われわれは、霊の賜物を用いることを教会の基本的な27の信仰の主要の一つとして掲げることさえしてきました。ですから、霊の賜物の概念を信じない人は、アドベンチストであり得ないのです。しかし、驚くことに、これがアドベンチスト教会において真剣に注目する必要がある一つの特徴なのです。あるクリスチャンのグループがカリスマ的な賜物を多く誤用しているという理由で、あるアドベンチストたちは、霊の賜物

の主題そのものを敬遠しようとしています。これは甚だしい誤りです。

アドベンチストは聖霊の力を信じています。われわれの多くは、後の雨の力をもって聖霊が注がれることを常に祈っています。しかし後の雨を祈っていながら、彼らが実際に何を求めているかを悟っている人は、わずかしかないようです。聖書の著者たちは、聖霊の大いなる降下を表すために、先の雨と後の雨という表現を用いてきました。先の雨は、キリスト信仰を力強い方法で開始した、五旬祭における聖霊の大いなる降下を表しました。後の雨は、大いなる福音の業を完結させる、終末時代の聖霊の最後の降下を表します。

先の雨を理解しないと後の雨を理解できません。先の雨において、五旬祭のときに聖霊は、霊の賜物のかたちにおいて、特に華々しい異言の賜物による霊の大いなる降下によって表されました。もし後の雨が、先の雨のようなものであるとするならば、後の雨は、霊の賜物のかたちによる聖霊の降下となるでしょう。後の雨を求めて祈ることは、信者の生活の中で、より多くの霊の賜物が表されるようにと求める祈りなのです。これこそ最後の時代に関するわれわれアドベンチストの理解の中心に存在するものです。

アドベンチストの信仰を残らず実践し、後の雨を祈り求めているアドベンチスト教会は、信者が持っている霊の賜物を現在活用しているばかりではなく、より一層多くの賜物を祈り求めるでしょう。しかし、いかに重要ではあっても、霊の賜物セミナーを単に開催する以上のことがなされなければなりません。信者たちは各自の賜物を確認するだけでなく、それらの賜物に相応しくミニストリーに実際に携わらなければなりません。

これが新約聖書のクリスチャンが働く方法なのです。霊の賜物は初代教会の重要な部分でした。ローマ12章、コリント1・12章、エフェソ4章は、霊の賜物の教理を具体的に確認しているパウロの著書の中の三大章です。ときにアドベンチストは、ペンテコステ派のクリスチャンたちが異言の賜物を強調し過ぎて、聖書に記録されている他の霊の賜物をおろそかにする傾向があるという理由で彼らを批判してきました。しかし、アドベンチストも同じ傾向を持っています。もともと異言とは異なる賜物——預言の賜物——ではありますが、ときどきわれわれは、あたかも預言の賜物が唯一の賜物であるかのごとく霊の賜物の教理を説くのです。しかし他の賜物よりもより重要である特定の賜物はありません。もし教会が神の計画と一致して働くべきなのであれば、すべての賜物が適切に機能する必要があるのです。

エレン・ホワイトは、霊の賜物の教理に対するこのバランスのとれたアプローチを発展させるようにと、アドベンチストに強く訴えています。教会にとって、この教理がいかに重要であると彼女が感じていたかに注目してください。

「一つの民としてわれわれの霊的虚弱の最大の原因は、霊の賜物に対する真の信仰の欠如である。もし彼らが皆この種の証しを十分な信仰によって受け入れるならば、神を喜ばせないこれらの事柄を引き離し、どこにいても一致と力をもって立つようになるであろう。そうすれば、現在教会を助けるために用いられている牧師の労力の四分之三は、新しい場所において教会を産み出す働きのために用いることができる。」(10)

「神ご自身の働きのために、神の御手によって粘土を用いていただこう。神は、ご自身がどのような器を欲しておられるかをちゃんとご存じである。すべての人に対して神は各自の働きをお与えになられた。神はその人の一番相応しい場所を知っておられる。多くの人々は神の御心に反して働いている。こうして彼らは織物を台無しにしている。」(11)

「神は教会の中に異なる賜物を置かれた。これらの賜物はそれぞれの適切な場所において貴重なものである。すべての者は、まもなくおいでになるキリストの来臨のために民を備えさせる働きの一部を担うことができるのである。」(12)

「わたしたちの教会では説教が非常に求められています。教会員は聖霊に頼るより、講壇からの雄弁に頼っています。彼らに与えられた霊の賜物は、求められず用いられないため、だんだん衰え、弱くなってきています。」(13)

「牧師は健康改革、霊の賜物、組織的に献げ物をする事、また、伝道活動の大きな部門などの重要な部門の働きをしばしばおろそかにしている。彼らの働きのもとにおいては、多数の者が真理の理論は受け入れるかもしれないが、やがて神の試みに耐え得ない者が多くあらわれる。」(14)

上述の文章をざっと読んだだけでも、霊の賜物に基づいたミニストリーが質の高いアドベンチスト教会づくりにとって非常に重要であることが明らかです。エレン・ホワイトは、これがおろそかにされていた真理であり、民をキリストの来臨に備えるために必要な真理であると感じていました。アドベンチストはイエスがまもなくお帰りになることを固く信じており、われわれの使命はキリストの来臨に民を備えさせることであると信じているので、霊の賜物に関する聖書の概念を回復する者であるという自覚は、われわれのアドベンチストの自己理解にとって基本的なことです。

霊の賜物に基づいたミニストリーは、セブンスデー・アドベンチストにとって選択肢の一つであるのではなく、不可欠な要素なのです。しかし霊の賜物セミナーがわれわれの教会で数多く開催されたにもかかわらず、霊の賜物の全体的な原則は、ほとんどのアドベンチスト教会においていまだに実行されてはいません。エレン・ホワイトは、彼女の時代のアドベンチストが新しい改宗者たちに霊の賜物の教理を教えていないことに気づきました。そこで彼女は、教会が霊の賜物に基づいたミニストリーを一層実践するようにと注意したのでした。

「自然に成長する教会」が確認したこの第二の特徴は、われわれアドベンチストの遺産の重要な部分であります。一つの民としてわれわれが誕生して以来、この特徴の重要性についてわれわれは理解してきました。しかしこれを実践する責任を担ってはきませんでした。「自然に成長する教会」は、われわれが霊の賜物に基づくミニストリーを実践する責任を担う手段を与えることによって、われわれに改善する助けを与えることができます。

アドベンチスト教会の調査では、賜物に基づいたミニストリーは、得点の列の二番目に低い位置です。この特徴はわれわれの教会の27の信仰の概要の一つであり、エレン・ホワイトによって強

く強調されていることを思えば、この質的特徴は得点の上位に近くあるべきだと考えるでしょう。ところが驚くことに、NADEIによるすべてのアドベンチスト教会の調査結果は、平均得点がわずか35でした。普通の範囲が35と65の間であり、50が標準値であることを考えると、アドベンチストは他のクリスチャン集団と比べてかなり低いことが分かります。

もちろんすべてのアドベンチスト教会が、賜物に基づいたミニストリーにおいて低い得点であったというわけではありません。最高得点は78でしたし、最低得点は-12でした。22の教会は、彼らの質的特徴の中で最高得点さえ取っていました。しかし、ほとんどのアドベンチスト教会は、この分野で低い得点でした。これは、ほとんどのアドベンチスト教会が注意を要する一つの事柄であることを示しています。

この質的特徴における関心分野は、信徒の賜物が何であるかを確認することにあるわけではありません。多くのアドベンチストは、自分たちの賜物が何であるかは既に知っているようです。問題は、各自の賜物と一致している働きに、信徒を配置することにあるようです。明らかに教会は、信徒を働きに配置しようとするときに、霊の賜物について彼らが知っている事柄を真剣に適用してはいません。役員推薦委員会は、信徒を働きに配置する際に、しばしば困難な問題を抱えています。この質的特徴に注目することによって、アドベンチスト教会はこのような問題を避ける助けとなるかもしれません。

教会が賜物に基づいたミニストリーを教会員の中に発展させるよう努めるとき、ミニストリーの中で、人々を助けるサポートシステムを発展させることになるでしょう。これは人々がミニストリーの中に入るように導き、このミニストリーが教会の伝道使命とどのように関連しているかを理解する助けを与えることによって、彼らをミニストリーに適応させ、ミニストリーの中にいる間彼らを守り、支え、もし必要ときには、新しいミニストリーの場に彼らを移行させる助けを与えるという、総合的なシステムとなるでしょう。

ほとんどの教会は、このような総合的なサポートシステムを提供してはいません。これが、アドベンチスト教会において賜物に基づいたミニストリーがうまく作用していない一つの理由であるかもしれません。信徒伝道は、ただ単に教会員を働きにつかせるだけではないのです。それはキリストの伝道使命を遂行する過程において、信徒が各自の自己実現を見出す助けともなるのです。両方の要素——自己実現と伝道使命の達成——が存在しないと、信徒は自分たちが利用されていると感じ、賜物に基づいたミニストリーは進展しないでしょう。

賜物に基づいたミニストリーを巧みに用いることによって、信徒はイエスの弟子に成長するでしょう。ミニストリーへの参加は、み業完結のために神が計画された方法の一つに過ぎません。

(10) Ellen G. White, "An Appeal to the Friends of Truth," Review and Herald, 14 January 1868, par. 8.

(11) Ellen G. White, "Lift Him Up" (Washington, DC: Review and Herald Publishing Association, 1988), 65.

(12) Ellen G. White, "Gospel Workers", 481.

(13) 『セレクトッド・メッセージ』福音社、166ページ

(14) Ellen G. White, "Evangelism" (Washington, DC: Review and Herald Publishing Association, 1946), 256.

## 第5章 熱烈な靈性

熱烈な靈性！ この特徴を持っていない高質の教会を想像することができるでしょうか。もちろんできません。熱烈な靈性は、健康な教会の不可欠な要素です。この特徴が存在しない教会は、自動的に病気になります。しかし歴史を通じて実に度々、キリスト教会は靈的な機関であることに失敗してきました。この問題は、一世紀の終わりには初期のキリスト教の中に忍び込み、ヨハネはエフェソの教会に書き送ったとき、教会が最初の愛を失った、と述べました（黙示録2：4）。

靈性の喪失は初期のキリスト教における問題であつたばかりではなく、終末時代の教会——ラオディキア教会——にとつても問題となるであろうともヨハネは指摘しています。アドベンチストとしてわれわれは、黙示録3：14～22を特にわれわれの教会に適用してきました。そこで述べられているなまぬるい病気は、まさに熱烈な靈性とは正反対の特徴です。終末時代の神の教会の特徴の一つは、教会の熱烈な靈性が欠如するということです。したがって、熱烈な靈性は今日の教会の主要なニーズなのです。

この質的特徴は単なる靈性ではなく「熱烈な靈性」であることに注目してください。ラオディキアの人々は靈性は持っていました。彼らに欠けていたものは、熱烈さでした。熱烈な靈性を持っている人々は、イエスに夢中になっている人々です。彼らはイエスに対する熱心な愛を持っています。キリスト教は、一週に一日限りの宗教ではなく、イエスの愛が全生涯を支配するような宗教です。

主のために燃え、キリストのみ業のために熱意と情熱に満ちている、熱烈なクリスチャンにあふれている教会を想像することができるでしょうか。このような教会は、クリスチャンでない人々をおのずと引き寄せる力を持っています。もし人々が、教会が主のために燃えているのを見ると、彼らは教会の入り口に急いでやって来て、中に入れて欲しいと要求するでしょう。

イエスが地上歴史の最終時代に求めておられるのは、このような教会なのです。教会に所属するということは、文化的な事象ではなく、王の王であられるイエスのご臨在の中に存在するという生き生きとした現実なのです。熱烈なクリスチャンは、あふれるばかりの喜びと熱心さ——人から人へと感染していく熱心さ——をもって彼らの信仰を実践します。

イエスは、熱烈な靈性についてしばしばお語りになりました。それはイエスの時代に知られていた、ファリサイ的なユダヤの宗教の活力のない形式主義とは対照的でした。マルコ12：30において、神に対するわれわれの愛について語られるイエスの言葉に傾聴してください。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」これは主をただ愛することだけではありません。イエスが望んでおられたのは、熱烈に神を愛することです。人々がイエスと一緒に時間を過ごしたとき、彼らの心はこの熱烈な愛によって燃やされました。「二人は、『道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか』と語り合った」（ルカ24：32）。

イエスばかりではなく、ペトロや初代教会の他の多くの使徒たちも、この感染する愛を互いに実証する必要を主張し続けました。すなわち次のように記されています。「何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい」（ペトロ1：4：8）。これはただの愛ではなく、熱烈な愛でした。これが熱烈

な靈性です。イエスと仲間のクリスチャンへのこの熱烈な愛の結果、キリストの弟子たちの愛の中には生き生きとした喜びが表されたのです。「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい」(フィリピ4：4)。熱烈な愛は、幸福と満足と喜びにあふれたクリスチャンを産み出すのです。これこそ新約聖書に示された聖書のキリスト教の中心です。

初期のキリスト教会における人々と同じように、初期のアドベンチストたちも、キリスト来臨の切迫を希望の中心としている人々のために、熱烈なキリスト教を強調しました。エレン・ホワイトは、これら初期のアドベンチストたちが熱烈な靈性を理解するのを助けようと試みました。彼女の勧告は、21世紀のアドベンチスト教会にとっても依然適用できる勧告です。

「私どもの心を支配しているのはだれでしょうか。私どもはだれのことを考えているでしょうか。また、だれのことを話すのが好きでしょうか。私どもがなによりも愛情をささげ、なによりも最上の努力を傾けようとするのはだれのためでしょうか。もし私どもがキリストのものであれば、かれと一つ心になり、かれのことを思うのが一番楽しいことになり、私どもの持ち物も、私ども自身もすべてかれにささげてしまいます。そして主のみかたちに似、主の霊を呼吸し、主のみ心をなし、すべてのことにおいて主を喜ばせたいと願うようになります。」(15)

「しかし祈りは、神を愛する魂にとっては、義務などではなく、喜びであり、力の源です。われわれの心は神に宿っており、われわれは日々の生活を通して『世の罪を取り除く神の小羊を見よ』と言うでしょう。」(16)

「キリストを崇め、キリストに似た者となり、キリストのために働くことは……人生の最高の大志であり、人生の最大の喜びである。」(17)

クリスチャン・シュヴァルツが研究調査を通して、21世紀における健康で成長している教会の重要な要素であることを確認した、この熱烈な靈性は、聖書とエレン・ホワイトの書物の中に見出される強力な質的特徴の一つであることは明らかです。聖書でも、エレン・ホワイトの書物でも、喜びのない陰気で暗いクリスチャンについてはどこにも書かれてはいません。真正なキリスト教が実践されている所はどこであっても、あふれる喜びが経験されています。熱烈な愛と喜びのない真正なキリスト教をだれも経験することはできません。熱烈なキリスト教はアドベンチスト経験の中心に位置しています。

「自然に成長する教会調査」を用いている教会において、熱烈な靈性はアドベンチスト経験の最上位に誓い位置を占めているようです。これはわれわれの二番目に高い特徴で、平均得点は46です。これまで記録されている最低得点は11で、最高は86を打っています。実際に燃えているこれら高得点の教会について神をたたえます！ 熱烈な靈性がアドベンチストとしてのわれわれの力の一つであることは幸いなことです。

しかし、アドベンチストとしてわれわれは比較的高い得点ではあるものの、他のキリスト教派と

比較してみると、われわれは平均値の50に達してさえないのです。ということはわれわれは満足してはならないということです。熱烈な靈性において、われわれは教会を改善するために働き続けなければなりません。調査の中で測定される分野は、個人及び共同体の靈的訓練と、感染する信仰の表現の二つの分野です。

アドベンチストとしてイエスと共に過ごす時間は、われわれにとって非常に重要です。安息日の目的のすべては、われわれがイエスと一緒に一日を過ごすことにあります。安息日におけるイエスとの交わりは、生き生きとした日毎の個人的なディボーションの経験と相まって、個人と共同体の靈的生命を高揚させる原動力となるはずですが、ところが悲しいことに、多くのアドベンチストにとって、安息日は喜びではなく、重荷となっています。その結果多くの人々は、安息日が与える喜びに満ちた経験に浴さないで、安息日を「耐えて」いるのです。われわれの安息日の守り方は、実際にわれわれの靈的喜びと熱烈な愛の一つの指標となり得るのです。もしイエスと一緒に過ごす時間が重荷であるとすれば、われわれは確かに熱烈な靈性に欠けているのです。

今こそ失われた願望の炎を再燃させるときです。今こそわれわれのすばらしい友、イエスのご臨在に浴するときです。今こそ、失われた愛の炎を再燃させ、われわれの愛にあふれる贖い主との温かい関係をもう一度喜ぶときです。この喜びと熱烈な愛がもう一度あなたの教会の一部となるように祈ります。イエスにあるあなたの愛と喜びを増しましょう！

(15) 『キリストへの道』福音社、71、72ページ

(16) Ellen G. White, "Christ's Followers the Light of the World," Review and Herald 13 May 1884 par. 10.

(17) Ellen G. White, "The Faith I Live By" ( Washington, DC: Review and Herald Publishing Association, 1973),166.

## 第6章 機能的組織構造

機能的組織構造ですって？ どのような組織構造が機能的でないのでしょうか。機能的でない組織構造を一体だれが望むでしょうか。健康などのような器官も、明らかに機能的な組織構造を持っているはずですが、もはや機能していないような組織構造をもって動いている教会は、健康ではありません。われわれが「機能的組織構造」という言葉を用いるとき、われわれは教会の伝道使命を支援できる組織構造を持っている教会を主として指しています。

イエスは、すべての民の中に弟子をつくるというマタイ28：16～20の大いなる責務を果たすために、教会を創造なさいました。この贖い主なるキリストの使命を果たす教会は、この大いなる委任を実現なさるキリストに従う教会です。しかし、ある教会は過去の組織構造に縛られて、キリストの伝道使命を果たすことよりもこの枠組みを維持することに一層の関心を示すようになりました。このような教会は、健康的な教会の特徴、すなわち機能的組織構造に欠けているのです。

初期のクリスチャンにとって、教会とはその伝道使命の命令を実現するために組織されたものでした。時間も才能も宝もみな、この使命を果たすために用いられました。教会の組織構造は元来、教会らしくなるようにという使命をもって発展したものではありませんでした。そうではなく組織

構造は、教会の伝道使命を実現するために発展したものでした。

同じことが初期のアドベンチスト教会においても起こりました。いったん伝道使命が理解されたとき、教会の組織は、教会がその使命を果たすことができるように進展しました。たとえば、初期のアドベンチストたちは、牧師を雇用する必要を感じていませんでした。説教の召命を感じた人はだれでも説教しました。しかし十分な説教は供給されませんでした。このメッセージに対する関心が大きくなるにつれ、彼らはまもなく使命の責務を果たすべき牧師を雇用する必要を感じました。

「1854年夏、セブンスデー・アドベンチストは、集会を開催するために大きな天幕を始めて使用した。このような目的のために天幕が用いられるのを見ることは、当時としては珍しいことであった。結果的にはこの天幕集会に群衆が押し寄せてきたのである。このメッセージに対する関心が増大したので、全時間を福音の働きに献げることができる牧師が必要となった。彼ら自身の手仕事の他に、何らかの支援手段がなければこれを実現することはできなかつたのである。」(18)

この必要感が、教会の使命達成のための組織構造を産み出しました。初期のアドベンチズムは、反組織体の立場をもって始まりました。先覚者たちは組織に対して断固反対しました。その結果、何も達成できませんでした。教会の使命を果たすためには優れた組織が絶対に必要でした。それ故にジェームスとエレン・ホワイトは、伝道使命を果たす優れた組織の必要を訴えたのでした。

「われわれの人数が増加するにつれ、何らかの形の組織がなければ大きな混乱が生じ、働きは成功のうちに前進できないことは明らかであった。ミニストリーを支え、新しい伝道地に働きを進め、教会とミニストリーを信徒として相応しくない人々の手から守り、教会の財産を保管し、印刷所から真理の印刷物を発行し、その他多くの目的を果たすために、組織は不可欠なものであった。」(19)

教会がその伝道使命を果たすことができるために、組織がつくられたということに注目してください。組織は常に使命に従属します。組織は使命に仕えるのです。使命が組織に従属するようになると、その組織は機能的でなくなります。エレン・ホワイトは、このような状況を次のように描いています。

「サタンは神の働きが活気のない形に堕し、魂を救うために無力となるように常に働いている。働き人たちのエネルギーや熱意や有用性が、万事を非常に系統立てて行う労力によって行き詰まっている一方で、この複雑で機械的な動きを保つために牧師たちによってなされなければならない厄介な働きが多くの時間を奪い、霊的な働きがおろそかにされている。すべきことがあまりにも多く、この働きはあまりにも多くの手段を要求するので、他の分野の働きに十分な注意が払われないために、しおれ死んでしまう。」(20)

われわれの初期のアドベンチストの先覚者たちは、組織の必要を速やかに悟りました。秩序と組

織は必須です。これらがなければ何事も達成することはできません。しかし時間の経過と共に、組織は継続し、ときには単に組織自体を継続するために存在している一方で、使命はぼんやりとかすんでしまうことが起こりうるのです。ですから教会は、定期的に教会内のさまざまな組織分野を調査し、それらが、教会がその使命を果たすために実際に役立つかどうかを問うことが非常に重要なことなのです。組織の規則や手続きが、キリストの伝道使命を受け入れているかどうかを見極めるために、それらを顕微鏡にかける必要があります。

ときには教会は、組織構造と教会の教理とを混同することがあります。キリストのメッセージは変わりませんが、そのメッセージを提示する方法は——それを支える組織構造の形態は——伝道使命を達成するために絶えず順応させる必要があります。教会の組織構造が使命達成の邪魔になるときは、その構造を変えるときです。

組織の変化する性質は、アドベンチストの歴史の中に見受けられます。神の導きのもとに初期のアドベンチスト教会は、その伝道使命達成に役立つ組織計画を立てました。しかし、時が経ちこの運動が大きく進展するにつれて、組織の変化が必要になりました。ほとんど40年間、すべての決定は世界総会委員会によってなされていました。主として北米だけの小さな教団である間はこれで結構でした。しかし20世紀の初めにはアドベンチズムは世界中に広がりました。もしオーストラリアにおいて決定がなされなければならないとき、兄弟たちはバトルクリークにある世界総会に手紙を書き、Eメールではなく、船によって郵送されなければなりませんでした。解答が帰ってくるまでに6～9か月かかりました。このような過程は、教会の伝道使命の妨げでした。

エレン・ホワイトの熱心な訴えに応じて1901年、地方レベルでの決定機能を置き、これによって使命達成により一層役立つように、教会は組織改造を行いました。これによって、どのような組織構造もいつまでも完全ではないこと、もし教会がその地域の状況に対応しようとするのであれば、絶えず調整が続けられるべきであること、を信者たちが理解する助けとなりました。

教団全体の場合と同じく、この原則は地方の教会にも適用されます。地方の教会は、ときどき過去を永續するための奴隷となり得ます。「ここではわれわれはそのようなことはしません」という言葉が多く教会で度々聞かれます。「自然に成長する教会調査」は、教会が機能的でない組織構造を持っていないかどうか、教会の組織構造が機能的で、教会の伝道使命を果たす支援をしているかどうかを教会に発見させてくれます。

興味深いことに、この調査によるとアドベンチスト教会は、「機能的組織構造」は8つの質的特徴の中央に位置しています。平均得点の36は、この特徴を6番目に置いています。最高得点は75で、最低得点は6でした。驚いたことに、得点75の教会は、その近くではあったものの、機能的組織構造が最高の質的特徴である教会はひとつもありませんでした。アドベンチスト教会においては、この特徴は強くも弱くもないように思えます。しかし、平均得点が36は、35から65までの通常の範囲の中にかろうじて入っている状況なので、明らかに改善する必要がある分野です。

あなたの教会はいかがでしょう。教会の組織構造は機能的でしょうか、それともこれまでそのようになされてきたからという理由で、ただそれを踏襲しているだけでしょうか。あなたの教会は伝統主義によって縛られていますか、それとも初期のアドベンチストのように、伝道使命を一層良

く支援する必要があるとき、組織構造を改変することができるでしょうか。健康的な教会は、イエスの伝道使命を達成するためには、絶えず組織構造を調整するというアドベンチストの遺産と一致するでしょう。

---

(18) John N. Loughborough, "The Church : Its Organization, Order and Discipline" ( Washington, DC: Review and Hiralid Publishing Association, 1907), 103.

(19) "Testimonies to Ministers", 26

(20) Ellen. G. White, "Testimonies for the Church", Vol. 4 ( Pacific Press Publishing Association, 1948), 602.

## 第7章 生き生きとした賛美と礼拝

神のすべての天使たちと一緒に、天父とみ子イエスをほめたたえる天における礼拝を想像してみてください！ 神のご臨在のもとに、神をほめたたえる深く感動的な経験は、われわれの頭で到底考え尽くすことはできません。しかしいつの日にか、われわれは経験するのです。それはどのようなものでしょうか。安息日の朝の教会のようでしょうか。もしこれに対してあなたが、「おお、それは違います」と応えるならば、あなたの教会は、生き生きとした賛美と礼拝において問題を持っているかもしれません。

明らかにわれわれの地方教会を、天の礼拝の栄光と同じものとすることはできません。しかし、天の宮廷において行われるものとの類似点はあるべきです。何が天における礼拝を独特な礼拝とするのでしょうか。神がそこにおられます。天使たちがそこにいます。聖霊が人々の心に触れておられます。もしこれらのものが、天における礼拝を構成する要素であるならば、神を礼拝するために安息日の朝神の民が会うときにも、これら三つの要素が存在しているはずで

「二十四人の長老は、玉座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝し、自分たちの冠を玉座の前に投げ出して言った。「主よ、わたしたちの神よ、／あなたこそ、／栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を造られ、／御心によって万物は存在し、／また創造されたからです」(黙示録4：10、11)。

神と神の天使たちが、安息日ごとにわれわれと一緒におられることは確かです。もしわれわれが一週の間、神にわれわれの心に触れていただく機会を与えなかったということが失われた要素であるとすれば、安息日に神をほめたたえる要素がほとんどないというのでしょうか。生き生きとした賛美と礼拝は、神が一週を通して毎日われわれの心を動かされたときに起こるものです。これが起こると、それは安息日の朝、心を動かす礼拝として噴出するのです。「退屈」に思える教会の礼拝は、教会員たちが一週の間神と共に過ごしてこなかったしるしであるのかもしれません。

落ち着いてください！ われわれの礼拝は、退屈で飽き飽きするような礼拝ではなく、祝宴のような礼拝であるべきですが、だからといってわれわれはここで「セレブレーション」式の礼拝を擁護しようとしているわけではありません。ここでの問題点は、教会が行っている礼拝形式の種類――

現代的な礼拝か、伝統的な礼拝か、等といったもの——ではなく、神が一週の間、教会員たちと共におられたので、礼拝が生き生きとしてなされているかということなのです。天は、われわれが与えることができる最善を要求します。宇宙の偉大なる神を礼拝するときに、地方の教会はなぜ最善でないもので我慢しなければならないのでしょうか。

しかし、礼拝はただ安息日の午前中に行われる集会にとどまるものではありません。クリスチャンが行うすべてのことは礼拝であるべきです。さらにもし「すべてのこと」が神を崇めていないとすれば、安息日の午前、どのような安っぽい模造品も代わりを務めることはできません。

「真の礼拝はキリストと共に働く事にある。祈りと勧めと話は、しばしば結びつけられる安い実である。しかし良い働きや、困っている人、父のない子、やもめなどの世話をする事に表される実はほんとうの実であって、当然良い木にみのるものである。」(21)

この種の礼拝が、神への愛と共に心にあふれ発散するとき、毎安息日の礼拝は喜びに胸を躍らせるものとなるでしょう。詩編の著者が、「主の家に行こう、と人々が言ったとき／わたしはうれしかった」(詩編122：1)と述べたとき、それは彼の本心から出た言葉でした。輝きに満ちた礼拝者たちは、王の王なる方のみ前にやって来るとき、心は神の愛に燃えて、熱狂的な喜びがほとぼり出るのでした。その表現の方法は、さまざまな文化の中で異なるでしょうが、その感動は同じです。

「熱烈で活動的な敬虔さが礼拝者の特徴でなければならない……神の家における礼拝者たちの活気のない態度は、ミニストリーが善のためにより多くの実を結ばない大きな理由である。多くの人々の心からあふれ出る、鮮明ではっきりと理解できる口調で歌われるメロディーは、魂を救う働きにおいて神がお用いになる道具の一つである。」(22)

礼拝様式は、文化の違いによって異なることは事実ですが、賛美と祈りのような一定の要素は常に残存しています。初期のアドベンチストたちは、生き生きと神をほめたたえることができました。当時の文化に従って、ジェームス・ホワイトは、通路を歩いて来るとき、賛美歌の調べを彼の聖書の上に叩きながら集会に入ってきました。アドベンチスト教会は、19世紀半ばの天幕集会の環境の中で興りました。したがって彼らの礼拝は、彼らが誕生した時代をよく反映していました。明らかにわれわれは今日、彼らの礼拝様式をそのまま正確に再現したいとは思いません。しかしわれわれは、初期のアドベンチストから学ぶことはできます。彼らは当時の文化的に訴える音楽や礼拝経験を採用しました。われわれもそうあるべきです。われわれは聖書の原則を決して妥協させてはなりません。イエスにあるわれわれの喜びを、21世紀に生きる人々に語りかけるために、その表現方法を見出すべきです。

興味深いことにエレン・ホワイトは、初期の時代に、アドベンチストの礼拝集会においてどのように歌を歌うべきかに関して幾つかの良い勧告を与えています。

「キャンプミーティングやその他の場所で注意すべきもう一つのことは、歌に関することである……最善の歌手たちの仲間を組織し、彼らの声が会衆を導くことができるようにし、そしてすべての人々が彼らと声を合わせるようにさせなさい……。彼らは幾ばくかの時間をさいて練習すべきである。こうして彼らはこの才能を神の栄光のために用いることができる。」(23)

「開催される集会においては、賛美歌礼拝において歌われる賛美歌を選びましょう。上手に演奏される楽器の伴奏で歌いましょう。われわれの働きにおいて楽器の使用に反対してはなりません。礼拝のこの部分は注意深く行われなければなりません。なぜならそれは、歌によって神をほめたたえることだからです。歌うことは必ずしも常に数人の人によってなされるべきではありません。できる限りしばしば、全会衆に参加させるようにしましょう。」(24)

彼女がわれわれのために置いている原則に注目してください。まず第一は、参加することです。多くの人々が参加すべきです。礼拝はほとんどの人々が見守る中での独唱会ではありません。それは会衆が参加するイベントです。第二の原則は、質が大切であるということです。会衆を導く礼拝チームは、前もって練習をし、神の栄光をたたえるに相応しい音楽がささげられるべきであるということです。第三に、ただ数人の音楽家が行うよりも、会衆による賛美が多くなされるべきである、ということです。

エレン・ホワイトはまた、礼拝における楽器の使用に関しても述べています。

「歌う才能を活用すべきです。楽器を用いることはまったく悪いことではありません。それは古代の宗教礼拝において用いられました。礼拝者たちは豎琴やシンバルに合わせて神をほめたたえました。音楽は私たちの礼拝において果たすべき役割を持っています。それは興味を増し加えます。」(25)

「あなたがここに持っている楽器を聞くことができ嬉しく思います。神はわれわれが楽器を持つことを望まれます。」(26)

彼女は、礼拝において歌の伴奏に楽器が使用されることに賛成していました。彼女は、「豎琴やシンバル」によって成立している聖書の中の礼拝にさえ言及しています。シンバルは、今日のある文化の中での教会には相応しくないかもしれませんが、エレン・ホワイトは、神の礼拝において、聖書の文化がこのような楽器を使用することは適切であったと、明らかに述べています。

聖書の時代の礼拝と初期のアドベンチストの礼拝について簡単に見てきましたが、これは、今日のわれわれの礼拝もまた最高の質をもつべきであり、キリストを見出したわれわれの内なる喜びを反映するものでなければならぬことを理解する助けとなります。「自然に成長する教会」は、生き生きとした賛美と礼拝がそのような教会の質的特徴の一つであると提言しているのです。聖書とエレン・ホワイトは明らかにそれに同意しています。もう一度申しますが、重要なのは礼拝の種類ではありません。重要なことは、すべての文化の中にいます神と、神を「霊と真理をもって」(ヨ

ハネ4：23) 礼拝する人々にとって、生き生きとした靈感を与えるような礼拝の質と文化的妥当性です。

生き生きとした賛美と礼拝は、今日までNADEIによって調査されたすべてのアドベンチスト教会において、平均得点が37で、8つの質的特徴の第5番目に位置しています。最高得点は、74で、最低は2でした。ほとんどの教会の得点が最低線に近いものだったので、われわれの平均は37にとどまりました。

われわれの教会で、礼拝に関する真剣な反省が必要なことは明らかです。おそらくわれわれは、ただ神を礼拝することよりも、礼拝様式についての議論のためにあまりにも多くの時間を費やしてきたのかもしれない。今こそ議論を止めて、「ハレルヤ」と叫びつつ神のみ前にぬかづくべきときです。われわれの音楽、われわれの祈り、そして神のみ言葉からのメッセージのすべてが、われわれに生き生きとした靈感を与え、より一層神への賛美に導くべきです。

生き生きとした賛美と礼拝は、おそらくあなたの教会において注目する必要がある質的特徴であるかもしれません。あなたの教会が「自然に成長する教会調査」を実施なさると、「教会に行くことが楽しみである」と教会員たちが考えているか、それとも「宗教的義務であるから」彼らが教会に出席しているか、が分かるでしょう。もし後者の場合でしたら、あなたの教会の礼拝についてばかりではなく、安息日ごとにあなたの教会に出席している人々の霊的生活についても再吟味する必要があるでしょう。

生き生きとした賛美と礼拝は、心の中が再臨の希望に燃えている人々で満ち溢れているアドベンチスト教会において、十分に50以上の得点があってしかるべきです。クリスチャンと告白している人々の中で、セブンスデー・アドベンチストは、生き生きとした賛美と礼拝の質的特徴において、最上位を占めるべきです。なぜなら、彼らはイエスの再臨のときに、彼らの主であり王である方の間近に迫った帰還を熱心に待望しているからです。この栄光に満ちた出来事に対する希望が、すべてのアドベンチスト教会にとって、再臨の喜びに照らして教会の礼拝を再吟味させる動機となりますようにお祈りします。

(21) 『クリスチャンの奉仕』福音社、136ページ

(22) Ellen G. White, "Testimonies for the Church", Vol. 5, 493.

(23) Ellen G. White, "Voice in Speech and Song", (Boise, ID: Pacific Press Publishing Association, 1988), 434.

(24) Ellen G. White, "Gospel Workers", 357-358.

(25) Ellen G. White, "Evangelism", 500.

(26) Ellen G. White, "Evangelism", 503.

## 第8章 多機能的小グループ

小グループは、教会活動の現代的方法の一つであるようです。しかし、聖書と初期のアドベンチズムを調べるとき、小グループは、その誕生のときからキリスト教にとって重要な部分であったことが明らかとなります。イエスはキリストの教会を12人という小さなグループから始められました。彼は彼の命を彼の小さなグループに注がれました。事実、イエスは群衆たちと一緒に過ごされ

たよりも、彼の小グループと一緒に一層多くの時間を過ごされました。そしてこの小グループが、最後には世界をつくり変えました。それとは対照的に今日の教会は、その大部分の時間を群衆に達しようとして用いているようです。しかし驚くほどには、世界に影響をほとんど与えてはいません。おそらくイエスの働き方にならってわれわれのミニストリーを実践していないために、イエスのために世界に達する力がない結果となっているのではないのでしょうか。おそらく今こそ、小グループをアドベンチストの生き方の重要な部分として復活させるときでしょう。

小グループは、イエスの教会の重要な部分であったばかりではなく、初期のクリスチャンたちが教会において行った主要な方法であったようです。五旬祭の直後、教会はさまざまな家で集会を持ちました。当時の家は、最大30人の人々を収容することができました。そこで多くの教会は小さな「家の教会」でした。

「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」（使徒言行録2：41、42）。

「そして、毎日ひたすら心をつにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし」（使徒言行録2：46）。

このようにしてキリスト教時代の最初の300年間が続きました。組織的な礼拝が標準的だとしたのは、中世時代の教会でした。初期の教会は、小グループでなされる集会に集中しました。

初期のキリスト教会は、共同体について非常な関心を示しました。上述の聖句が示しているように、活動は、学びと祈りと交わりを中心になされました。これらは皆、主として小グループ活動です。使徒パウロは、ローマ12章において、クリスチャンが共に集まる根拠としての共同体の概念に、一層の神学的深さを加えています。事実、使徒ヨハネは、この交わりこそ教会が共に集まる理由であるとさえ述べています（ヨハネ1・1：1～3）。

多機能的小グループは、全人、つまり、人の思いばかりではなく感情も取り扱うのです。それは、人々があるのままの姿であることができ、責められていると感じない安全な場所なのです。それは愛と受容の雰囲気の中で、キリストにあって成長する場所です。それはまた、実を結ぶミニストリーのために訓練される場所でもあります。なぜならば、増加することが、多機能的小グループ、もしくは細胞グループの基本的性質であるからです。人間の細胞が常に増加しているように、教会という霊的からだも細胞の増加によって成長するのです。多機能的小グループはまた、人々がキリストにある彼らの命に責任を持つことができる場所でもあります。

人々が安息日の朝、大きなグループの中で出会い、互いの後ろ頭を調べるだけでは、これらのことは起こりません。信仰の成長が起こるためには、顔と顔を合わせてなされるコミュニケーションが絶対的に必要です。これこそが、なぜ小グループに参加することがクリスチャンにとって選択肢ではなく、教会の重要な質的特徴であるかの理由なのです。事実この質的特徴は、初期のキリスト

教にとっての基本であったようですし、初期のアドベンチズムにも明らかでした。

先覚者たちは、発展しているアドベンチスト教会において、関係的グループの必要性を速やかに感じていました。そのように感じたのはおそらく、彼らが教会員にキリストにある命に責任を持たせるためのクラス集会在強調されていた、メソジストの背景を持っていたからでしょう。それはまた、揺らん期の教会に、いわゆる「社交的集会」を進展させるように促したエレン・ホワイトの靈感の導きによるものでした。(初期におけるアドベンチストの社交的集会に関する詳しい研究は、私が書いた“The Revolutionized Church of the 21st Century (21世紀の革命的教会)” (27) をお読み下さい。) 初期のアドベンチストたちは、社交的集会在いわゆる社交としてではなく、交わりと証しとクリスチャンの命を分かち合う時として用いました。

初期のアドベンチストの社交的集会には、さまざまな部分がありましたが、必ずしもいつも同じ方法では行われませんでした。重要な構成部分は、——彼らは全員がすべての集会在常に出席してはいませんでした——証し、祈り、責務説明、賛美でした。通常聖書研究は社交的集会では行われませんでした。これらのアドベンチストたちは、完全に関係的な出会いを持つ必要を感じていました。もし彼らが聖書研究を社交的集会に加えたならば、このイベントが最後には、別の認知経験となってしまうと理解していたようでした。彼らは関係的な集会对する明確な必要を見ていたのです。

初期のアドベンチストたちは、社交的集会在安息日の午前の説教集会的の代わりに用いました。彼らは安息日学校(認知経験)のために集まり、それから社交的集会(関係経験)を持ちました。エレン・ホワイトがヨーロッパを訪問したとき、彼女はヨーロッパの教会が社交的集会在持たないで開始していたことを発見しました。そこで彼女は、ヨーロッパの人々に、教会を始めるアドベンチストの方法を説明する時間を持ちました。彼女は、社交的集会在存在しないアドベンチストの経験を想像することができませんでした。

エレン・ホワイトは、社交的集会在擁護したばかりではなく、小さな集会在、アドベンチストがいかに礼拝すべきかに関する彼女の理解にとって重要なことでもありました。神は彼女に、この関係的な小グループの概念をお与えになりました。彼女は無条件にそれを認めました。

「クリスチャンの働きの基礎として小グループを形成することは、過ちのあり得ない方によって私に提示されました……彼らの固い結びつきが壊れないようにし、愛と一致において互いに親密となり、前進するように互いに励まし、他の人々の支えによって、勇気と力を得るようにしなさい。」 (28)

もしエレン・ホワイトが成長する教会の質的特徴を列挙したとするならば、小グループは明らかに最高に近い位置を占めていたことでしょう。ですから、クリスチャン・シュヴァルツが彼の調査の中で、多機能的小グループを8つの質的特徴の一つに挙げたことは、別に驚くことではありません。この基本的なアドベンチストの質的特徴は、自然に成長する教会調査によって十分に測定されています。

残念なことに、この調査によって測定された多機能的小グループは、アドベンチスト教会の得点

の中では最低得点の特徴で、平均がわずか33でした。この特徴に対するアドベンチストの歴史とエレン・ホワイトからのこのような強力な承認が与えられているので、この特徴は最高に近い位置を占めていると人は考えることでしょう。しかし、この分野においてわれわれは、われわれの遺産に忠実ではありませんでした。しかし明るい点も存在しています。幾つかのアドベンチスト教会は、エレン・ホワイトの言葉を真剣に受け止め、多機能的小グループを実践しています。わずかの教会は得点が非常に高く、得点が84にも達していて、自然に成長する教会調査のすべての特徴の得点記録の中での最高得点のひとつでした。しかし、ほとんどの教会の得点は最低線に近く、一番低い得点は、-14でした。

これは、多くのアドベンチスト教会において真剣に注目する必要がある一つの特徴であることはあきらかです。もしあなたの教会がこの分野で低ければ、小グループにおいて改善すれば、他の多くの分野の得点においても同じように改善できることを知ると励みになります。

多機能的小グループは、成長する教会の能力に最も強く結びついている質的特徴です。シュヴァルツは、グループの増加が、新しい人々をキリストに導く教会の救霊能力に非常に明らかに関係していることを発見しました。アドベンチストは、失われている人々を救う働きの重要性を固く信じているので、多機能的小グループがわれわれの教会の重要な部分となるようにすることによって、われわれの力の及ぶ限り聖書とわれわれの初期のアドベンチストの遺産に対して忠実であるべきです。

(27) Russell Burrill, "The Revolutionized Church of the 21st Century" (Fallbrook CA: Hart Research Center), 1997.

(28) Ellen G. White, "Testimonies for the Church", Vol. 7, 21.

## 第9章 ニーズ志向的伝道

健康的な教会はどの教会であっても、伝道的な教会でしょう。伝道的でないことは、行って弟子をつくりなさい、というマタイ28：16～20にあるイエスの命令に直接違反することになります。ここに、健康な教会は伝道的な構成要素を含むべきであるという理由があるのです。というのは伝道こそ、イエスの教会の存在理由そのものであるからです。

悲しいことに、多くの教会は彼らの伝道機能を失ってしまいました。失った理由は、この大いなる命令がもはや先導する光となっていないからです。ある教会は、教会員たちを励ますために週に一度会う楽しい社交クラブへと堕してしまいました。社交クラブに何も悪いことはありませんが、それがキリスト教会の目的ではありません。キリストの教会は、弟子をつくるというキリストの伝道使命を果たすために、存在するように召されたのです。

ある教会は、人々がだれも福音に応答しそうにないという理由で、伝道以外の事柄を強調する必要があるという確信に至りました。人々の心に達することはできないと述べることは、教会がキリストの伝道使命を果たすことができるようにさせる聖霊の力を否定することと同じです。もしイエスが命令されたのであれば、人々を救いに導くことは可能ですし、教会がキリストの命令を実現することを保証するために、天のすべての力が与えられているのです。

問題は、応答しない人々の側にあるのではなく、神の教会が天の力を用い、失われた人々に達するような適切な方法を発展させるための、教会の意志と決意が欠けていることにあるのではないのでしょうか。われわれがここで考察している質的特徴は、ただ単なる伝道ではありません。それは「ニーズ志向的伝道」です。この意味は、われわれは自分たちの言葉を用いてではなく、人々の言葉によって彼らに伝道しなければならないということです。われわれは人々がいる場所に行かねばなりません。彼らが伝道されるためにわれわれのもとに来ることを期待してはなりません。イエスが弟子たちに「行って」（マタイ28：19）と述べられたとき、イエスが意味されたことの本質はこのことでした。イエスは、人々が来るまで待つようにと言われたのではなく、彼は人々のもとに行くとわれわれにお命じになったのでした。

イエスがこの地上に来られたとき、彼はその手本をお示しになりました。彼は宇宙の象牙の玉座に座ったままで、人々に彼のもとに来るように招かれたではありませんでした。そうではなく彼は、この地上にお降りになり、われわれを救うために、われわれと一つになられました。イエスは一世紀の文化の中にご自身を浸たされました。イエスは救うためにおいでになったその人々と一体になりました。

イエスは、教会の人々とだけ一つになったものではありませんでした。彼は、罪人たち——失われた人々——と特に一緒におられました。事実彼は、失われた人々と多くの時間を過ごされたという理由で、当時の宗教的指導者たちから絶えず批判されました。「すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、『この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている』と不平を言いだした」（ルカ15：2）。イエスが失われた人々とあまりにも親密に一つとなっていることに対して、彼らがイエスを批判したことに注目してください。

イエスが、ミニストリーのこの受肉モデルを実証なさったばかりではなく、使徒パウロもまた、これを彼のミニストリー全体を通じて実践しました。新約聖書の教会は、孤立パターンの上に建てられたのではなく、失われた人々と一体モデルの上に建てられたのです。パウロの伝道論に関する次の古典的声明を考察してください。「弱い人に対しては、弱い人となりました。弱い人を得るためです。すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです」（コリント1・9：22）。

新約聖書の教会は、ニーズ志向的伝道に集中してイエスによって建てられ、パウロによって受け継がれました。なぜなら新約聖書の教会はイエスに忠実に従ったからでした。エレン・ホワイトは、19世紀に新たに建てられたアドベンチスト教会において、この伝道手法を擁護しました。彼女の以下の声明文は、イエスとパウロによって実証されたものと明らかに同じ響きを持っています。

「イエスは人々の幸福を願う者として、彼らの中にはいつて行くことによって、彼らの心をとらえられた。……彼は人々が日常の働きをしているところで彼らに会い、彼らの俗事に興味を示された。」(29)

「われわれは社交的なまじわりをたちきるのではない。他の人たちから孤立してはならない。あら

ゆる階級の人々に接するためには、われわれは彼らのいるところで彼らに会わねばならない。」(30)

「われわれの宗教はわれわれを非情にしたり苛酷にしたりしないということを世の人々にわからせよう。」(31)

「人の心を動かすにはキリストの方法だけが真の成功をもたらす。人間と交際しておられた間、救い主はその人たちの利益を計られ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして『わたしについてきなさい』とご命令になった。」(32)

エレン・ホワイトは、伝道に対するアドベンチストの手法は、ニーズ志向的でなければならない、と幾たびも強調しました。彼女はこれをイエスが示された手本として描いたばかりではなく、上述の声明文において、これが真の成功をもたらす唯一の方法であるとさえ宣言しました。イエスのニーズ志向的伝道以外の方法は、真正な結果を生み出さないでしょう。教会が、救われた者たちの必要よりも、失われている人々の必要を満たす伝道の働きを強調することによって、イエスの命令とエレン・ホワイトの勧告に従うことが非常に重要であるのはこの理由からです。

成功しないかもしれないが、容易な伝道方法を用いるのではなく、イエスの伝道手法と一致している質の高い教会は、効果的でない伝統的方法を破棄するでしょう。これらの教会は、失われた人々の必要を見出し、次いで人々がいる場所で人々に会うという手法を手本として実践するでしょう。失われた人々が教会に応答することを期待すべきではありません。教会が失われた人々のニーズに応えなければならないのです。これがキリストの接近方法であり、伝道に対する唯一の正当な姿勢です。

ニーズ志向的ミニストリーのプログラムに加えて、質の高い教会は、失われた人々を救う情熱を持っています。わずかの障害があるからという理由で彼らは、彼らの目的から目を逸らしません。失われた人々を救う可能性のあるすべてのことをすることに、彼らは熱意を示すでしょう。失われた人々への働きを最優先することが、これらの質の高い教会の活動の中に表されるでしょう。伝道が、常に毎月の教会理事会の議案の中で、最優先事項となるでしょう。失われた人々への働きを最優先させることが、教会の金銭の使い方において、またミニストリーのための人々の用い方において示されるでしょう。換言すれば、彼らは失われた人々の救いのために、口先だけで働くではありません。他の人々と接触したいという彼らの願望は、彼らの時間と金銭の使い方によっても示されるのです。

「自然に成長する教会調査」によって測定されるのは、伝道に対するこのニーズ志向的手法及び、失われた人々の救いに対する教会の情熱なのです。驚くことに、これまでに調査されたアドベンチスト教会は、「ニーズ志向的伝道」を、8つの質的特徴の最高位に置いています。平均得点は48で、その最高得点は86、最低は12でした。われわれの特徴の中でこれが最も高い平均得点でしたが、それでも標準の50よりも低いことに注目しましょう。ということはこの分野においてさえも、一層の働きが必要であるという意味です。

われわれは、われわれが行っていること、及びこの特徴をわれわれが持っていることを誇る事ができます。しかし、われわれがこんなに良い得点である唯一の理由は、この特徴に関するほとんどの教派の得点が低いからなのです。われわれは、われわれの伝道的ミニストリーにおいて、大きな改善を依然必要としているのです。ほとんどの教会は失われた人々へのいくらかの情熱は持っていますが、ニーズ志向的伝道手法に欠けているように思われます。しかしわれわれは、幾つかのアドベンチスト教会がこの特徴において非常に高い得点であり、この特徴が最低の位置にある教会はほんのわずかであることを喜ぶことができます。

もしアドベンチストたちが、地上歴史の最終時代に神のメッセージを伝えさせるために、神が彼らを召されたことを本当に信じているならば、再臨の希望が彼らの中心に燃えているこの教会において、この質的特徴が一層強力になるようにすることが非常に重要となります。

---

(29) 『各時代の希望 (上巻)』 福音社、176、177ページ

(30) 『各時代の希望 (上巻)』 福音社、177ページ

(31) 『各時代の希望 (上巻)』 福音社、178ページ

(32) 『ミニストリー・オブ・ヒーリング』 福音社、115ページ

## 第10章 愛にあふれる関係

新約、旧約両聖書を通じて、理想的な神の家族は、人々が本当に愛し互いに優しく接している家族の集まる場として描かれています。イエスを知る結果の一つは、人々が他の信者たちと相互依存の関係を維持しているということです。共同体こそ、イエス・キリストの教会があるべき中心的姿勢です。共同体が教会の存在にとって非常に重要であるので、クリスチャン・シュヴァルツがそれを教会の8つの質的特徴の一つであると発見したことは別に驚くべきことではありません。

しかし悲しいことに、イエスの教会は必ずしも常にキリストの愛を仲間の信者たちに反映してきませんでした。しかし、愛し愛される精神は、クリスチャンであることの中心的特徴です。愛さない人は、神を知ってさえいないのです。イエスに最も近くいた使徒は、イエスが愛しておられた使徒ヨハネでした。イエスの胸に寄りすがっていた彼は、他のどの使徒よりも、イエスの品性の本質を一層はつきりと見つけていたようです。神の品性の本質としての愛を、われわれにより良く理解させる助けを与えているのは、ヨハネです。彼は彼の福音書と彼の手紙の両者の中でそれを明らかにしています。

「愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです」(1ヨハネ4:7、8)。

もし愛がクリスチャンであることの意味の極致そのものであるとするならば、質の高い教会は、その愛を信者同志の関係において、また神の家族以外の人々との関係において実証するはずで

愛と信頼の雰囲気、世界にキリストの品性を反映したいと望む教会の必須事項です。新約聖書は、以下の聖句の中で、愛し合う関係の最重要性を明らかにしています。

「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」(ヨハネ13:35)。

「兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい」(ローマ12:10)。

「なぜなら、互いに愛し合うこと、これがあなたがたの初めから聞いている教えだからです」(ヨハネ1・3:11)。

愛と受容のこのメッセージは、イエスに従うように選んだ人々の明確な特徴の一つとして新約聖書全体に響き渡っています。しかし、教会は度々「われわれは真理を持っている」という傘の下に、教会の愛の欠乏を正当化しようとしてきました。しかしイエスは、もしわれわれが真理を持っているならば、われわれは愛するであろう、と述べておられるのです。ときどき教会は彼らの愛の欠乏を、新しい改宗者たちに人々を見ないでイエスを見つめるべきであると告げることによって、覆い隠そうとします。人々はあなたを失望させるかもしれませんが、イエスは失望させません、と彼らは言います。これに反対することは難しいかもしれませんが、実はこれはイエスが言われたこととは正反対なのです。

イエスは、愛が神の民の明確な特徴であると宣言なさいました。彼らが互いにいかに深く愛し合っているかによって、われわれは常に神の民であると言うことができるのだ、とイエスは言われました。イエスはこの民を見なさい、とわれわれにお告げになりました(ヨハネ13:35)。もしイエスが正しければ、教会は真理の名の下に身を隠すことを止める必要があります。そしてキリスト教の本質である愛を実践することによって、彼らが本当にイエスの弟子であることを知らせるようにいたしましょう。

われわれの救い主イエスは、クリスチャンがこのアガペーの愛を実践する必要性を強調なさいました。エレン・ホワイトは教会がこの明確なクリスチャンの美徳を実践し、主の真の代表者となるようにと強く訴えました。

「信者の心をつなぐ結びつけ、交わりと愛の絆において、またキリストと天父とに一体となることにおいて示される愛の黄金の鎖は、結合を完全にし、反論することができないキリスト教の力の証しを世にもたらす。……サタンは、品性を変革させる恵みの力についての世界に対する証人としてのこのような証しの力を理解している。……彼は、真理を信じ、天父と御子とに固く結びついていて人々の、心と心をつなぐこの黄金の鎖を断ち切るために、考えられるあらゆる方法を用いて働くのである。」(33)

「福音のために、愛にあふれた愛すべきクリスチャンほど有力な議論はありません。」(34)

「もしわれわれが神の前にへりくだり、親切で礼儀正しく、柔和で憐れみ深くあるならば、真理に帰依する人が今は一人しかいないところに、百人いるようになるであろう。」(35)

われわれの伝道でさえ、われわれがいかに深く愛するかによって影響されます。エレン・ホワイトは、愛にあふれる関係は、キリスト教のためになし得る最も力強い議論である、と述べています。これこそイエスがヨハネ13：35において述べておられることの本質です。しかしこれよりも一層強力に彼女が提言していることは、もしわれわれがイエスのこのすばらしい愛を本当に反映するならば、今一人しか回心者がいないところに、100人の回心者がいるようになるであろう、ということです。われわれの伝道の成功が欠落しているのは、われわれの周囲にいる信者に対し、またクリスチャンでない人々に対して、イエスの愛をわれわれが完全に反映していないからだ、と言うことができるのではないのでしょうか。

このように強力な聖書の支持と、愛にあふれる関係の必要を強調するエレン・ホワイトの多くの勧告が与えられていることを考えると、この質的特徴は、アドベンチスト教会において最上位に位置するだろうと人は考えることでしょう。しかし悲しいことに、われわれは行いによるよりも、言葉によって多く説教してきました。われわれの愛の欠乏がキリストの体に恥をもたらししてきました。愛にあふれる関係は、質の高い教会となるように求めている信者たちが真剣に注目しなければならぬ分野であることは確かです。

平均得点が41である「愛にあふれる関係」は、調査を受けたアドベンチスト教会における上位4つの特徴の中に入っています。標準値の50には達してはいないものの、ほとんどのアドベンチスト教会がかなり高い得点であることをわれわれは感謝したいと思います。これまでの最高得点は88で、最低は4でした。幾つかのアドベンチスト教会は、愛にあふれる関係において非常に高い得点ですが、他の教会は明らかに強力な助けを必要としています。

愛にあふれる関係は、愛と信頼の雰囲気によって表されるばかりではなく、教会の中で表現される喜びの量によっても表されます。愛にあふれる関係において高得点を取っている教会は、大きな喜びを経験し、表現する教会でもあります。これは軽薄な喜びではなく、イエスを知ることから来る健康的な喜びです。クリスチャンは彼らの人生がどのような状況にあらうとも幸せな人々です。イエスを知ることによって、人は最大の喜びと幸福を得ることができます。

(33) Ellen G. White, "God's Amazing Grace" (Washington, DC: Review and Herald Publishing Association, 1973), 237.

(34) 『安息日学校への勧告』福音社、112ページ

(35) Ellen G. White, "Testimonies for the Church", Vol.9, 189.

## 第11章 あなたの教会の現状は？

8つの質的特徴！ 仮にあなたの教会でこれらの特徴がすべて普通以上だとしたらどうなるのでしょうか。あなたの教会は神の理想を実現するのでしょうか。再臨の希望を持っているいかなる教会も、その現状を継続的に調査し、これらの質的特徴の一つ一つを改善するように求めなければなりません。

われわれは、シュヴァルツの、自然に成長する教会モデルの中に列挙されている8つの質的特徴の一つ一つが、聖書とエレン・ホワイトの書物の両者によって、非常に高く支持されていることを見てきました。これらの特徴は、アドベンチストの歴史の一部として常に擁護されてきた原則です。これら8つの質的特徴の中には、まったく初めて理解するような新しい事柄は一つもありません。これらは、聖書とエレン・ホワイトが共に、神の教会の質的特徴としてしばしば述べてきた事柄を、十全な現代的調査によって立証し、新しくわれわれに提示されてきたものに過ぎません。

「自然に成長する教会」についてのすばらしい点は、われわれの教会がこれらのそれぞれの特徴においてどのような状況であるかを、科学的に測定する道具を作成したという点です。過去において教会は、その弱点が何であるかを想像することしかできませんでした。が、「自然に成長する教会調査」は、教会における真の問題点が何であるかをはっきりと分かるようにしてくれます。正しく診断されると教会は、そこからさらに教会を健康な存在へと導く優れた処方を得て、前進することができるのです。

しかし、教会の弱い特徴や、調査における高い得点や低い得点をただ発見するだけでは何の益にもなりません。いったん診断がなされたならば、教会はその弱い分野を改善する計画を立てるようにならなければなりません。処方の過程がないままで調査を完了することは、時間と金銭の非常に浪費となります。しかし、調査の後に教会の健康を改善する計画を立て、その計画を実行するならば、教会とその影響下にあるすべての人々にとって大きな祝福となるでしょう。

自然に成長する教会調査のアドベンチスト版は、ミシガン州、ベリアン・スプリングス、アンドリュース大学内、神学院の建物にある、北アメリカ支部伝道研究所から取り寄せることができます。電話番号は、269-471-8303です。健康な教会の自然な8つの特徴を適用することによって、あなたの教会を申し分のない健康な教会になさってはいかがですか。

### 「自然に成長する教会」によって健康なアドベンチスト教会を創造する

発行：2009年8月18日  
著者：ラッセル・ブリル  
翻訳：山地明  
制作：セブンスデー・アドベンチスト教団伝道局

